糸高ＰＲ新聞

立高出会
県川校員
潟魚学委
新
糸等版

迷っていたら糸高へ！ＰＲ第３弾

糸魚川高校に来てね

高校生座談会

「〝推し〟です、糸高。」

糸高生は「とにかく真面目」「文武両道めざしてる」

糸高生が受験生の皆さんに語る

中学三年の皆さんは受験勉強真っ最中。中学二年の皆さんも一年後ですね。私たちは皆さんに糸魚川高校を知ってもらい、仲間を増やして糸高を盛り上げられたらとＰＲ新聞第三号を発行しました。

今号では、現役糸高生が糸魚川高校について率直に語ります。

皆さん！理想に向かう力を糸高で身につけましょう

総探発表会最優秀賞！

綱引だって頑張りますっ

Q糸高の現状について

㋐「糸魚川だけじゃないけれど、小中学生の数がすごく減って糸高も学級減。先生の数も減ったし廃部になる部活もあって残念。」

㋑「生徒が減ったから掃除も大変です。」

㋒「糸高はコレ！の決定打セールスポイントがない。スマホ規則や平日バイト禁止が嫌で来ない人がいるかも。」

㋓「ＰＲじゃない（笑）」

㋔「だけど糸高生は真面目だよね。妙に騒ぐとか、イジりが過ぎるとか露骨に授業寝てるみたいな人はいない。」

Q糸高入学の理由は？

㋐「家が近いから（笑）」

㋑「でもそれ正解だよ。自分も通学が楽で、お陰で好きなことをやれる時間ができた。」

㋔「吹奏楽部を続けたいと思ったのが理由」

㋒「サッカー部で志望校迷ったけれど、自分では文武両道っていうか勉強と両立出来たと思っていて、糸高で良かったと思っている。」

Q糸高の強みって何？

㋐「伝統校の蓄積があると思う。各方面に先輩方も多いし推薦入試可能な大学等も多い。」

㋔「やっぱり地元の高校だっていうところで通学以外でも時間に余裕を持って行動できるのは大きいです。」

㋒「生徒が減って大変だけれど、部活も勉強も頑張りたいという人が、まだまだいるところが強みだと思う。」

㋑「コロナでの休業とか、他校に比べてかなり少ない。今年は体育祭も亀陵祭（文化祭）も修学旅行も行事は大体やれた。糸高生は自覚を持ってきちんとルールを守れる人が多いからだと思います。」

㋓「総合探究の活動も糸高の特色でしょう。小中でも学んできたけれど、改めて地元の良さも分かったし、問題点も理解できた。」

Q中学生の皆さんへ最後に一言お願いします

㋔「一緒に糸高を進化させましょう。糸高を盛り上げる仲間に是非なってほしいです。」

㋑「気持ち次第で願いは叶う。何かを自分で成し遂げようという気持ちがあるなら、学校とか環境は関係ないってことですかね。」

㋓「それって糸高でなくても別にいいよってことじゃないの（笑）」

㋑「違います！糸高で何でも出来るということが言いたいんです。」

糸高生本音トークは以上です。勧誘になっていたかな…糸高が気になった方お待ちしています。≪土沢京祐（前生徒会長）／金子夏野（生徒会長）／熊倉莉鷹・松木明日香・猪又史豊（出版委員）≫

多彩な行事と探究学習

コロナ下でも全ての行事実施

学習に真面目に取り組む生徒が多いことは糸高の特色ですが、学校規模が小さくなった今でも行事や部活動に一生懸命取り組む人が多いことも特筆です。

部活動に熱心に取り組みたい人は遠方の強豪校を目指すというのも選択肢。でも当然良い面と悪い面があり、選んだ以上は自分の責任ですし保護者の負担も違う。良く考えることが大事でしょう。

今年度は体育祭と文化祭も保護者参観可能で実施できました。長崎への修学旅行も無事行ってきました。

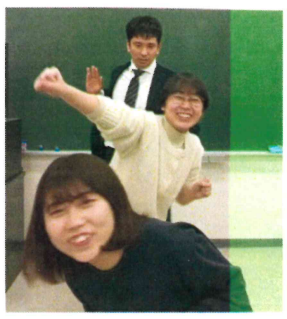
コロナ規制等で、予定通りにならないこともあり心配しましたが結果的には全てよくやれたと思っています。

そして糸高の特色と言えば、「総合的な探究の時間の活動」です。今は各校でも様々な活動をしていますが、糸高は糸魚川市による全県屈指の支援の下で、コーディネーターの支援を受けつつ探究活動を進められることが特色です。年末には、市民会館での発表会も盛大に開催できました。

さらにコーディネーターの斡旋で、生徒有志による探究活動も企画実行されてます。「帰り道を魅力化しよう」と、押上ひすい海岸駅にフォト掲示板を設置する等、各方面での活動が始まっています。

拍手喝采ステージ発表

高校魅力化コーディネーター３人体制に



エールを送る三人の勇姿

森あやねさん、大久保翔平さんに続く三人目のコーディネーターに山形県出身の齋藤希さんが就任されました。広告代理店勤務の経験を生かして早くも大活躍中。自習室「翠葵（みずき）」での生徒の進路志望理由書作成支援にもあたりました。

三人体制の高校魅力化コーディネーターですが糸魚川白嶺と海洋高校での支援事業も本格指導、引っ張りだこで超多忙！

お三方の活躍はインスタ等で絶賛発信中。是非見てね、とのことです。一二年生の皆さん「翠葵」をどんどん利用しよう。

校長挨拶

選択の責任を負う

校長　早川勝志

昨年の市の出生数は百六十人。半減です。

他の先進国と同様、移民等による「国民の入替わり」を否応なく進めぬ限り、地殻変動など起きずとも将来日本は確実に沈没します。

子孫消滅の社会が「SDGs＝持続可能な開発目標」であるはずがない。我々は若い世代の人生選択にどう向き合うべきでしょうか。

若者に「好きに生きていい応援するよ」と端から言うのは格好は良いが安易であると私は思います。進路を考える機会に「親と郷里とどう向き合うか」と是非考え問うてください。無論、当校もこの課題に向き合い続けます。

「糸高入学がSDGsへの最初の一歩」となるよう、伝統を踏まえつつ新時代に対応した取り組みを進めます

当校は市の支援を受けSDGsをテーマに課題解決に向け探究学習を推進しています。目下多くの問題に直面する我国ですが、その根源は人口減少です。

現在糸魚川の中学卒業予定者は約三百人、

班に行く糸高
ＰＲ新聞発行
「皆さんださい」
来てください
熊倉莉鷹
猪又史豊
松木明日香
久保田永愛
中村日菜